

# カリフォルニア大学システムにおける資料保存

UCLA東亜図書館司書 マルラ俊江

資料保存という概念は、日本でも近年頼に広がりをもってきたようです。ちょっと前には、資料保存と言えば、主に資料の製本、修復を指していたように思います。ところが現在では、資料保存とは「現在と将来の資料の利用を保証する営み」と理解されるようになったと言われているようです。資料が入手されますと、その事実をできるだけ早く、できるだけ便利な方法で利用者に提供し、その資料を利用可能な状態に保管する、ということは、あらゆる図書館に通じる基本的な営みではないかと思えます。ところが、それも、大学図書館となりますと、一旦所蔵されることになった資料は多くの場合、処分されることなく増える一方で、この「資料を利用可能な状態に保管する」という作業はなかなか大変なことになってまいります。最近では、図書館で扱う資料の種類も増え、本、雑誌から、マイクロフィルム、ビデオ、CD-ROMと幅もうんと広がりましたから、資料保存の内容も必然的に幅が広がってまいります。また、学術研究の性質もますます多様になってきておりますから、一図書館であらゆる出版物を網羅的に入手することはすでに不可能となり、このような状況の中で、一国、あるいは世界レベルで研究資料の提供を保証するためには、資料保存においても図書館間の協力が必要になってまいりました。こうして、一館内、ないしは地域レベル、あるいは全国レベルという様々なレベルでの資料保存対策を推進していく必要がでてきたわけです。例えば、一図書館内での資料保存対策としては、まず非常事態発生時の図書館資料の保護対策、さらに資料保管環境の整備、そして資料の利用と盗難等をふまえた安全対策という全体的な資料保存体制を立てた上で、新収ないしは既存の資料に関して化学的処理を施

したり製本したり、また利用のための複写やマイクロフィルム化などが考えられるでしょう。また、もっと広く一国内資料保存対策として、たとえばアメリカの例をとりますと、人文科学基金保存とアクセス部(National Endowment for Humanities, Division of Preservation and Access)は劣化資料及び雑誌のマイクロフィルム化、文書館資料の整理、資料保存教育と研修に関わる様々なプロジェクトを助成しています。資料保存の領域は、もはや、個々の文献の修理、製本のレベルをはるかに超えた、大掛りな視点をその中身として内包するに至っているのです。

ここで、そのような資料保存活動の一例として私の勤務先である、UCLA図書館の事例を紹介します。UCLA図書館で非常事態対策がさわがれるようになったのは、ロサンゼルスで大型地震がおこった1994年よりさらに2年以上もさかのぼります。1991年7月1日、カリフォルニア職業安全健康事業法が改正され、すべての雇用者に傷害病気を予防するようなプログラムを職場で実行するよう義務づけたことから、UCLAではたとえば、職員が職場で危険な事物を発見した時に環境・健康・安全事務所に直ちに通報できるようしくみがまず整備されました。1992年初頭には各図書館の建物を単位として安全委員会が設けられ、会議や救急処置の講習のみならず、消火器の使い方の実践など実地トレーニングも組織されました。安全委員会メンバーにはヘルメット、腕章、赤いベストなどが配布されていて、いざという時にはそれらを身につけて出勤というわけです。その他の図書館員には、ヘルメット、手袋、マスクが配布されています。電話連絡網も常に更新され出勤日、

休日を問わず各職員に連絡ができるようになっています。UCLAは州立の大学図書館ですが、一般の人も入館可能ですが、平日8時から夜11時までの開館中ずっと、図書館の入り口には警備員が常駐、一時間毎に図書館内の各部署を巡回することになっています。今年4月の非常時準備会議では、非常時における各図書館での資料の救済計画について議論されました。具体的には、洪水などの水の災害の予防と水害が起こった際の空気乾燥および冷凍乾燥による救済方法が紹介され、ロサンゼルス近辺にある冷凍乾燥の施設も紹介されました。また、各図書館で、非常時において、絶対救済されるべき貴重な資料を選出、優先順位をたてるよう奨励され、そのリストが各図書館から各建物の非常時準備責任者に提出されました。

次にUCLAにおける図書館資料のマイクロフィルム化の事情について触れますと、今年は州から35,000ドルの助成金を受け、それで8つのプロジェクトがとり行なわれました。日本語文献としては、1928年から1941年までの間に出版されていた大衆雑誌『富士』の東亜図書館に所蔵される分がマイクロフィルム化されました。この雑誌は、ロサンゼルスダウンタウン近くにある共同システムという日本語学校に長く所蔵されていたものですが、保管場所がなくなったためUCLAに寄贈された6,000冊を超す図書の中に混じていたものでした。ちょうどその前年、東亜図書館では、北米日本語資料調整委員会(NCC)から資金援助をうけて、国立国会図書館にあった、この『富士』の後継誌にあたる『キング』と『富士』のバックナンバーからマイクロフィッシュを作成してもらったばかりでしたから、この雑誌の到着はとて素晴らしいタイミングでした。また、この日本語学校にあった資料の多くは、在米日系移民が第二次世界大戦中強制収容されましたカリフォルニアのツールレーク収容所にあった図書館に旧蔵されていたもので、歴史的価値もあるものです。そ

ういう事情でUCLAにやってまいりました『富士』ですが、調べてみますと、日本でも国立国会図書館にあるくらいで、それも欠号がありました。たまたま国立国会図書館で欠号のものが、UCLAにあたりもしましたし、ほんの22号分ですが、状態もこのままでは近い内に自然破壊は免れないというものでしたので、マイクロ化を薦めることにしたわけです。ちなみに、国立国会図書館にあるバックナンバーをマイクロ化するには、260万円以上かかるそうですが、手後れになる前になんとかそうして欲しいと願ってやみません。

次にUCLAを含むカリフォルニア大学システムにおける資料保存ということで、共同保存図書館とカリフォルニア・デジタル・ライブラリーの事例を紹介します。カリフォルニア州は南北に長い州で、その面積は日本の国土より少し広いくらいですが、人口は、北部はサンフランシスコ近辺、南部はロサンゼルス近郊の大都市に集中しています。カリフォルニア大学システムは、9つのキャンパスからなり、北部にバークレー校を中心に4校、南部にはロサンゼルス校を中心に5校があります。この9つのキャンパスの資料を共同保存するために創立された図書館として、北部にNRLF(Northern Regional Library Facility)と南部にSRLF(Southern Regional Library Facility)があります。この二つの施設は、ほぼ同様な性質をもっていますが、ここでは特にSRLFについて言及します。南カリフォルニアにあるUCシステム5校の利用度の低い図書資料、文書、写本類、またマイクロフィルムなど特別な扱いを要する資料を各資料に適した環境で廉価に保存できるよう、SRLFは1987年8月に操業を開始しました。設置計画は、すでに1977年に打ち出され、1984年にはカリフォルニア州からその建設資金の援助を受け、1987年第一フェースが完了、1995年に第二フェースも完了し、現在約700万冊の図書資料収容能力があると言われていま

す。このスペースが利用しつくされると、また増築計画第三フェーズが施行されるということで、増築用スペースも考慮して、UCLAキャンパスの西のはずれにある現在の敷地が選ばれました。収蔵資料は、すべて資料の大きさ別に5つのグループに分け、効率的に配架され、5校の資料が区別されることなく、その高さ別の各グループごとに収蔵された順に並べられ、すべてバーコードで管理されています。SRLFでは、貴重書や、ハリウッドに近いUCLAならではの映像テープ資料等も保存されていますが、これらの資料は特別な保存環境が必要ですから、SRLFの中でも、さらに特別な部屋に置かれています。通常の書架では、常に華氏60度(摂氏約15.6度)相対湿度50パーセントに保たれ、図書館資料の保存に最適な環境を整備しています。SRLFに保管されている文献の書誌データは、カリフォルニア大学システムの統合目録であるMELVYLというオンライン目録とUCLAのOPAC、ORION2で、誰でも、どこからでもインターネットでアクセスでき、もれなく検索できます。SRLFには限られた閲覧スペースもあり、週日の午後1時から5時まで利用できますが、基本的には保存図書館ですから、利用者は通常その所属するキャンパスから、貴重書を除き、すべての資料を各自オンライン請求することができます。貴重書に限っては、その資料の送り元の図書館の館員が、利用者に代わって文献を請求し、閲覧希望者はそのとりよせた図書館でのみ、閲覧ができるようになっています。UCLAからは毎朝11時までにオンラインで請求を出せば、同日の午後4時頃までには利用者が指定した図書館に届けられます。サンディエゴ校などは、SRLFから地理的にかなり遠隔になりますから、1日は配達にかかるようです。原則として、文献の輸送には南カリフォルニア内では、2日、北カリフォルニアへは4日を限度として迅速な配達サービスを目指しているようです。一旦、各図書館に文献が配達されると、その図書館の貸し出

し規則に従って個々の利用者に貸し出されま  
す。ですから、更新手続きなども各図書館に所蔵されている文献とまったく同様になされま  
す。UCLAでは、720万冊の蔵書のほとんどが  
OPACで検索可能、更新手続きもオンラインで  
可能です。この施設はカリフォルニア大学シ  
ステム南部地区の共同保存図書館として設立され  
たわけですが南カリフォルニアに位置する、シ  
ステム外の図書館が書庫スペースの共同利用を  
希望した場合は、書庫スペースの1割を上限と  
して、施設の運営にかかる費用を負担するとい  
う条件で参加することができます。この施設の  
運営はUCLA図書館があたっていますが、行政  
上は南部カリフォルニア大学システム各校の代  
表者によって構成される評議会が最高決定権を  
有します。SRLFで保管される資料は貴重書な  
どを除き、一著作一冊が原則で、重複文献は受  
領されません。虫害、かびのひどいもの、また  
自然燃焼の恐れのある資料は受領されません。  
SRLFによる保存用マイクロフィルムの作成サ  
ービスは5年前に始まりました。Paul J. Getty研  
究センターが所蔵する文書類の大型コレクション  
のマイクロフィルム化はここで数年にわたっ  
て行われています。また、UCLAの特別資料課が  
所蔵する大型日系米国人コレクションのマイク  
ロ化も、国立国会図書館からの依頼で昨年から  
ここで行われています。

カリフォルニア・デジタル・ライブラリーと  
いう組織は1997年に"Library without walls"とし  
て、カリフォルニア大学システム第10番目の組  
織として創設されました。名前から明らかなよ  
うに、カリフォルニア大学システム各校と広く  
カリフォルニア州民に対し、電子資料の作成と  
その資料を提供することを主目的として、カリ  
フォルニア大学総長室内に設けられました。こ  
こから提供されている資料には、MELVYLを  
はじめさまざまな目録データベース、電子ジャー  
ナルの他に Online Archive of Californiaとい  
う、カリフォルニア州に所蔵される様々な文書

資料コレクションのファインディングエイズの電子統合目録があります。このデータベースでは、カリフォルニア州にある50に近い、図書館、博物館、美術館、文書館に所蔵される文書、写本、写真、および美術品のような一次資料従来所蔵データを得るのが非常に困難であったこれらの資料群にオンラインアクセスを提供しようとしています。ここには現在5,000を超えるファインディングエイズがEncoded Archival Description(EAD)にのっとしてSGMLを用いて電子化されています。このデータベースの原形は、3万ページから成る文書資料のファインディングエイズを電子化するという内容で、1996年から1998年までの2年間をかけてUCLAを中心に施行されたパイロットプロジェクトに始まりました。この統合目録では、組織

的な検索ができ、また一部の書誌データは実物のイメージデータに連結してありますので、それぞれの図書館、文書館に赴かなくとも、実物が見られるものもあります。このデータベースは、資料保存の一端としての資料の電子化の事例であると言えるでしょう。

以上、UCLAおよびカリフォルニア大学システムにおける資料保存活動の事例を紹介しましたが、今後はますます世界規模の資料保存およびアクセスの提供について考えていく必要があると思います。私たち司書の一人一人がこのような意識をもって、それぞれの日常の仕事に反映していきたいものです。

(まるら としえ)

注：UCLA(University of California , Los Angeles)

## 教官寄贈図書一覧(平成12年8月～10月)

身分	寄贈者氏名	寄贈図書名	出版社	出版年
教授	松山隆司	コンピュータビジョン	新技術コミュニケーションズ	1998
助教授	蘭 信三	「中国帰国者」の生活世界	行路社	2000
名誉教授	花井哲也	不均等構造と誘電率	吉岡書店	2000
教授	福井勝義	New Horizons in Bon Studies	国立民族学博物館	2000
総長	長尾 真	The Role of Radiation in Origin and Evoliton of Life	京大学術出版会	2000
総長	長尾 真	Children Designers	Ablex Pub.	1991
総長	長尾 真	Internet Revolution アメリカ エコノミーの神髄	(株)NTTデータ	2000
総長	長尾 真	法律人工知能	創成社	2000
総長	長尾 真	著作権法	有斐閣	2000
総長	長尾 真	東京大学は変わる	東京大学出版会	2000
総長	長尾 真	情報通信研究の最前線	郵政省通信総合研究所	1999
総長	長尾 真	電子図書館	勁草書房	1999
総長	長尾 真	実践!ナレッジマネジメント	日経PB出版センター	2000
総長	長尾 真	エレクトロニクス生活革命	(株)工業調査会	1999
総長	長尾 真	祈りと祝祭の国ルーマニアの宗教文化	淡交社	2000
総長	長尾 真	移動する聖地	NTT出版	2000
総長	長尾 真	カオスインパクト	(株)森北出版	1999
総長	長尾 真	デジタル世紀のプライバシー・著作権	日本評論社	2000
総長	長尾 真	新ミリ波技術	オーム社	1999
総長	長尾 真	博物館情報論	雄山閣	1999
総長	長尾 真	The Childrenn's Machine	Basic Books	1993